

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

北海道科学大学 御中

基礎力測定テスト

PROG 全体傾向報告書 (2025)

2025.11.07
株式会社リアセック

受験者プロフィール

受験日：2025年 4月～7月

学部	学科	1年	2年	3年	4年	合計
工学部	機械工学科	88	0	88	0	176
	電気電子工学科	82	0	63	0	145
	建築学科	93	0	67	0	160
	都市環境学科	38	0	40	0	78
	情報工学科	-	0	75	0	75
		301	0	333	0	634
情報科学部	情報科学科	106	-	-	-	106
		106	-	-	-	106
薬学部	薬学科	188	0	0	155	343
		188	0	0	155	343
保健医療学部	看護学科	116	0	84	0	200
	理学療法学科	56	0	49	0	105
	義肢装具学科	-	0	34	0	34
	臨床工学科	67	0	65	0	132
	診療放射線学科	69	0	47	0	116
		308	0	279	0	587
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	92	0	64	0	156
	人間社会学科	46	0	42	0	88
		138	0	106	0	244
合計		1,041	0	718	155	1,914

※リテラシーテスト受験時間45分のところ
20分未満または、30問中解答数10問未満の
学生について、解答姿勢が低かったことが
想定されるため、これらの学生のスコアを
除いて集計しております。
除外対象数は下記の通りです。

学科	1年	3年	4年	合計
機械工学科	1	0	-	1
電気電子工学科	1	2	-	3
建築学科	1	4	-	5
都市環境学科	5	3	-	8
情報工学科	-	1	-	1
情報科学科	2	-	-	2
薬学科	0	-	7	7
看護学科	3	6	-	9
理学療法学科	0	0	-	0
義肢装具学科	-	0	-	0
臨床工学科	0	2	-	2
診療放射線学科	0	0	-	0
メディアデザイン学科	1	1	-	2
人間社会学科	4	0	-	4
合計	18	19	7	44

■2025年度貴学受験者1,958名の
平均解答時間と平均解答数は下記の通りです。

リテラシー解答時間：40分50秒

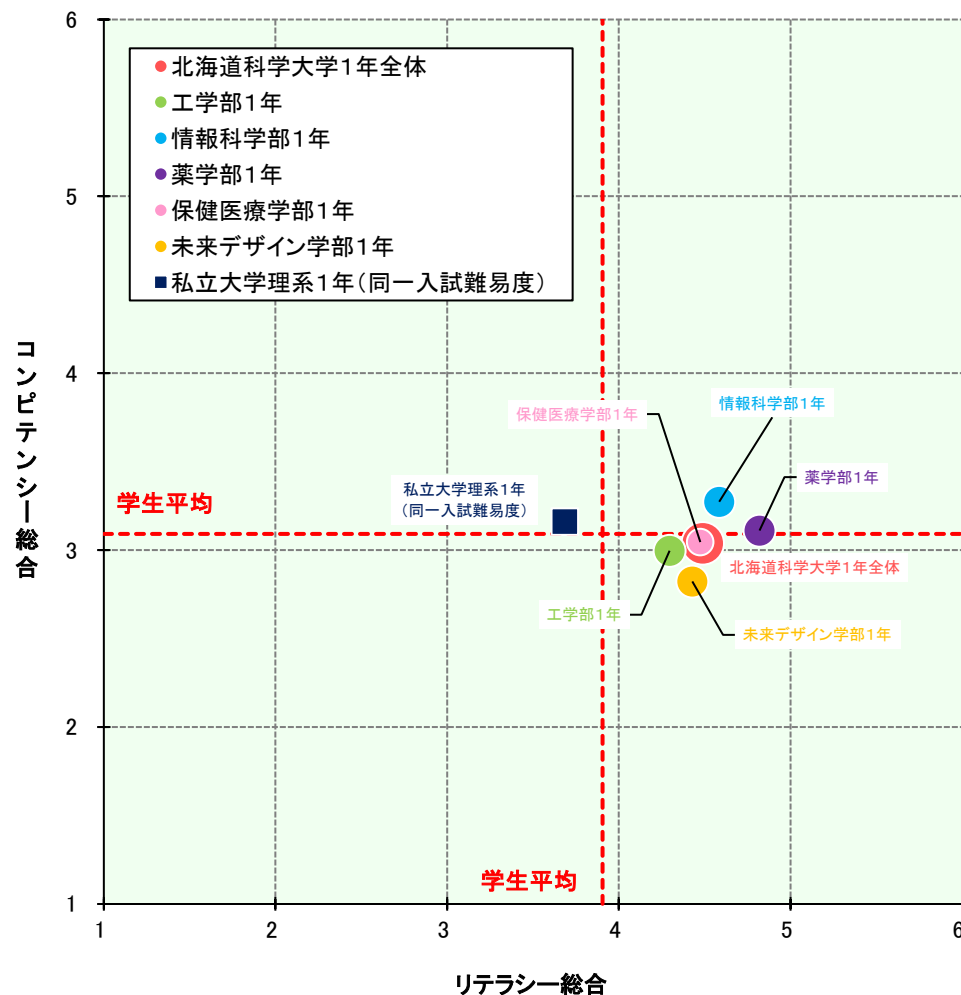
リテラシー解答数：28.8問

※除外前スコアは次頁をご参照ください。

除外前スコア一覧

学科	学年	受験人数	除外対象	集計対象	除外前スコア		学年	受験人数	除外対象	集計対象	除外前スコア	
					リテラシー	コンピテンシー					リテラシー	コンピテンシー
					総合	総合					総合	総合
機械工学科	1年	89	1	88	4.13	2.69	3年	88	0	88	-	-
電気電子工学科	1年	83	1	82	4.65	2.69	3年	65	2	63	4.88	2.78
建築学科	1年	94	1	93	4.36	3.48	3年	71	4	67	4.34	3.40
都市環境学科	1年	43	5	38	3.42	3.45	3年	43	3	40	3.67	3.58
情報工学科	1年	-	-	-	-	-	3年	76	1	75	4.78	3.12
情報科学科	1年	108	2	106	4.55	3.27	3年	-	-	-	-	-
薬学科	1年	188	0	188	-	-	4年	162	7	155	5.24	2.86
看護学科	1年	119	3	116	4.09	3.17	3年	90	6	84	4.46	3.26
理学療法学科	1年	56	0	56	-	-	3年	49	0	49	-	-
義肢装具学科	1年	-	-	-	-	-	3年	34	0	34	-	-
臨床工学科	1年	67	0	67	-	-	3年	67	2	65	4.49	3.22
診療放射線学科	1年	69	0	69	-	-	3年	47	0	47	-	-
メディアデザイン学科	1年	93	1	92	4.62	2.71	3年	65	1	64	4.38	3.00
人間社会学科	1年	50	4	46	3.76	3.10	3年	42	0	42	-	-

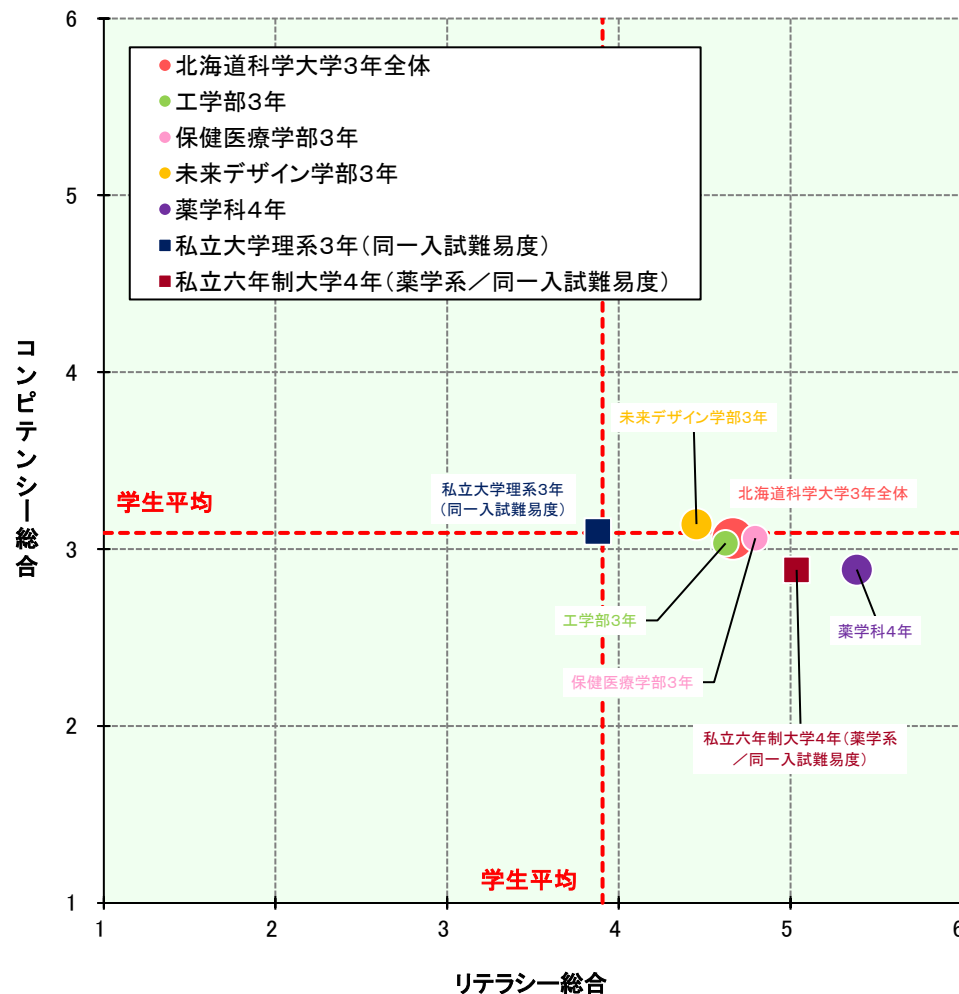
リテラシー総合 × コンピテンシー総合



■ 学生平均概要

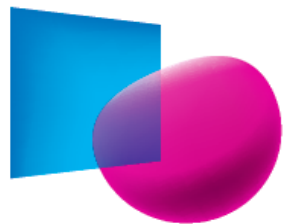
	リテラシー領域	コンピテンシー領域
	約298,000人	約871,000人
受験期間	2024年4月～ 2025年7月	2022年4月～ 2025年7月 (一部2016年4月～)
学校数	292校	408校
学校区分		
四年制大学	238校	338校
短期大学	54校	70校
国公立内訳		
国立	24校	36校
公立	26校	40校
私立	242校	332校
文理比率		
文系	56.9%	54.6%
理系	38.0%	40.2%
不明・他	5.1%	5.2%
学年比率		
1年	55.4%	52.1%
2年	5.7%	7.5%
3年	31.4%	32.5%
4年	6.0%	6.6%
他	1.6%	1.4%

リテラシー総合 × コンピテンシー総合



■ 学生平均概要

	リテラシー領域	コンピテンシー領域
	約298,000人	約871,000人
受験期間	2024年4月～ 2025年7月	2022年4月～ 2025年7月 (一部2016年4月～)
学校数	292校	408校
学校区分		
四年制大学	238校	338校
短期大学	54校	70校
国公立内訳		
国立	24校	36校
公立	26校	40校
私立	242校	332校
文理比率		
文系	56.9%	54.6%
理系	38.0%	40.2%
不明・他	5.1%	5.2%
学年比率		
1年	55.4%	52.1%
2年	5.7%	7.5%
3年	31.4%	32.5%
4年	6.0%	6.6%
他	1.6%	1.4%



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-1 1年生 学部別 通常集計

基準集団を、入試難易度(偏差値)を使用し抽出している場合、
入試難易度(偏差値)は河合塾から提供されたものを使用しています。
また、入試難易度(偏差値)は一般入試のみを対象としています。

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
------------	------------	------------	------------

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学理系1年(同一入試難易度)

95校 N=37,463

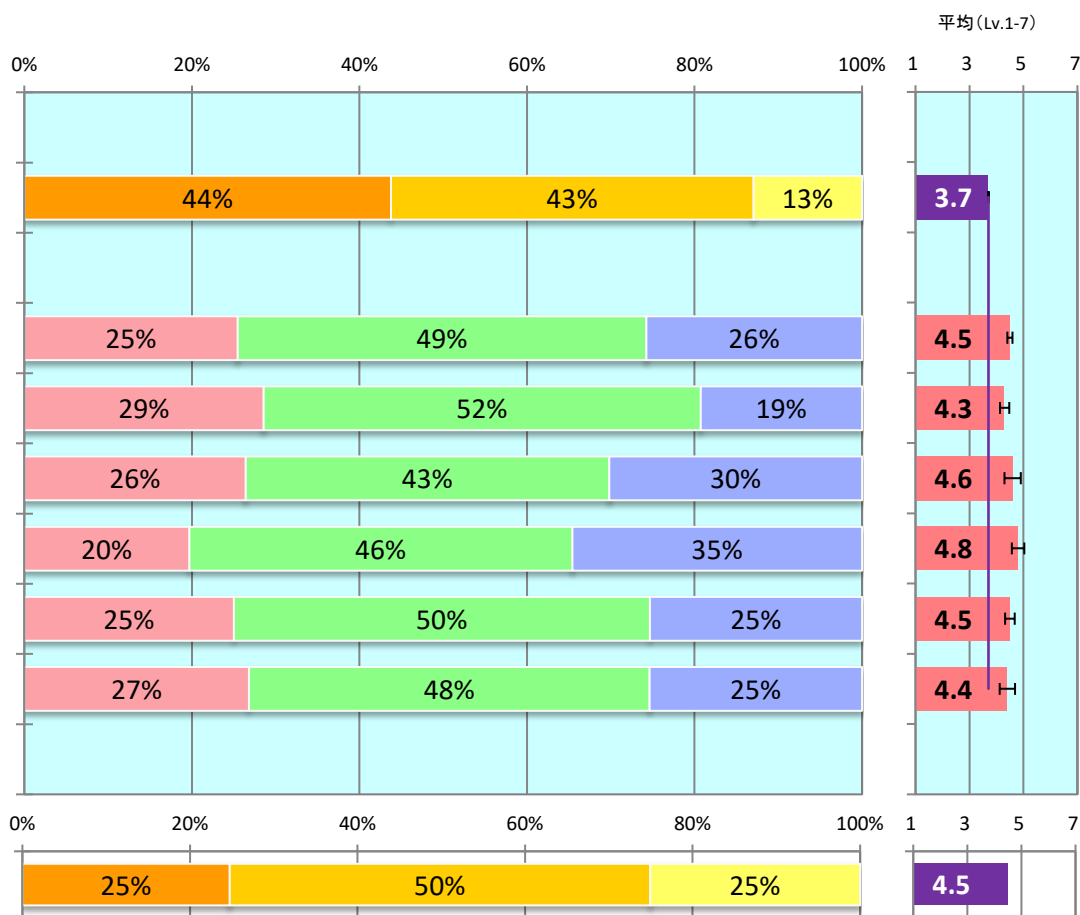
	χ^2 乗値	有意確率
北海道科学大学1年全体	218.23	0.00
工学部1年	30.58	0.00
情報科学部1年	31.55	0.00
薬学部1年	92.92	0.00
保健医療学部1年	63.99	0.00
未来デザイン学部1年	26.09	0.00

【ご参考基準集団】

2024年度北海道科学大学1年

1校 N=982

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【北海道科学大学1年全体】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【工学部1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【情報科学部1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【薬学部1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

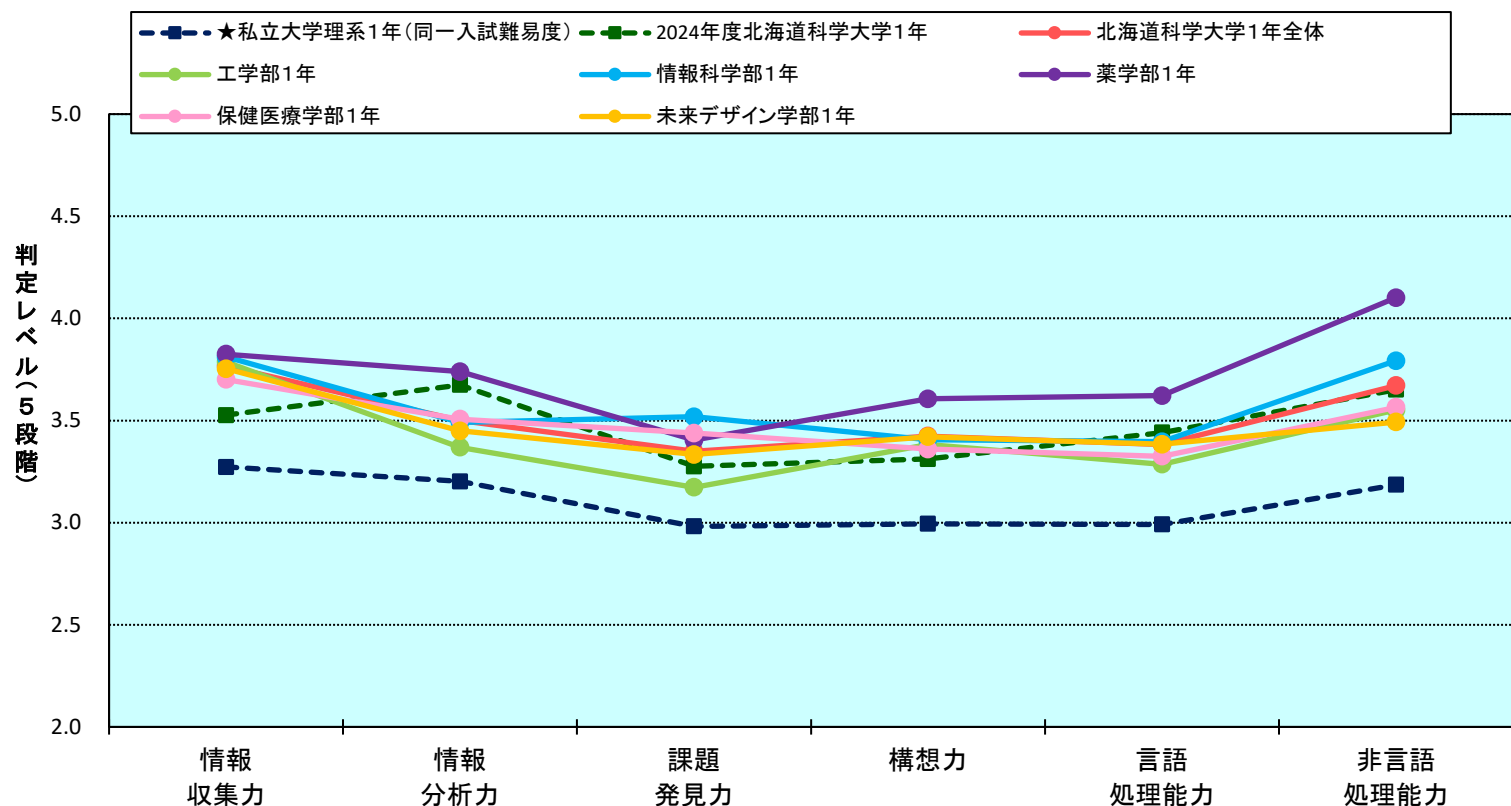
【保健医療学部1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【未来デザイン学部1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

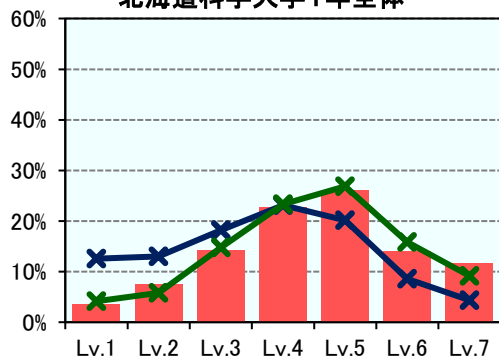
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

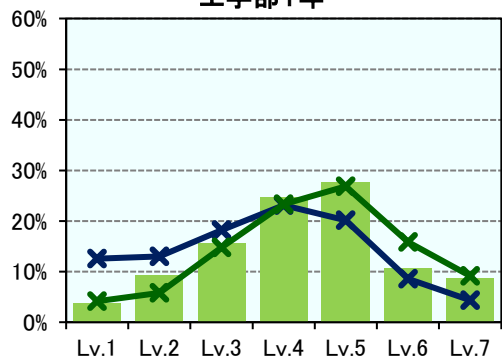
—×— 私立大学理系1年(同一入試難易度)

—×— 2024年度北海道科学大学1年

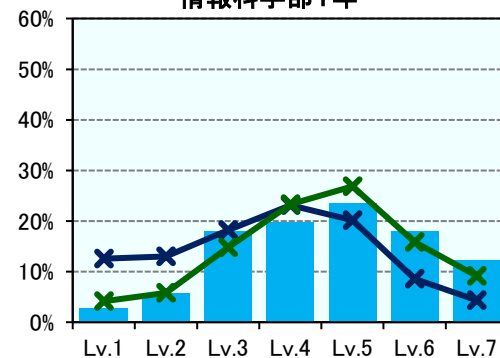
北海道科学大学1年全体



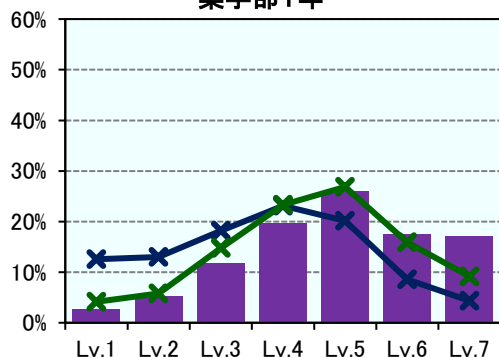
工学部1年



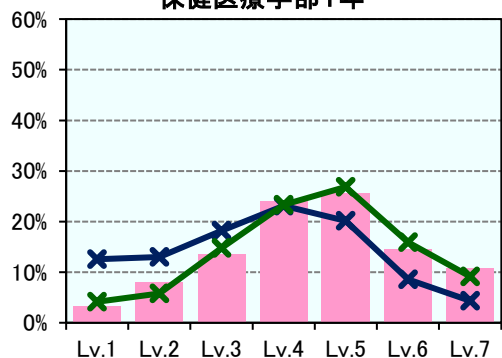
情報科学部1年



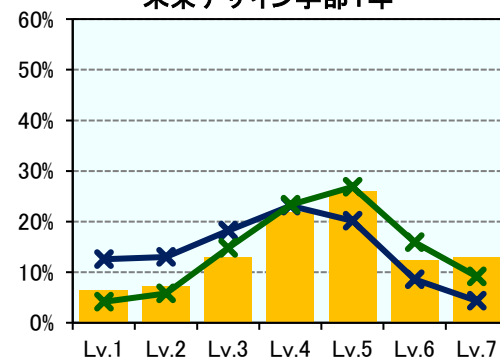
薬学部1年



保健医療学部1年



未来デザイン学部1年



コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

- 基準集団(★印)と比較して、
北海道科学大学1年全体、工学部1年、未来デザイン学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)

低 (Lv.1-2) 中 (Lv.3-4) 高 (Lv.5-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-2) 中 (Lv.3-4) 高 (Lv.5-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)

低 (Lv.1-2) 中 (Lv.3-4) 高 (Lv.5-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学理系1年(同一入試難易度)

119校 N=100,745

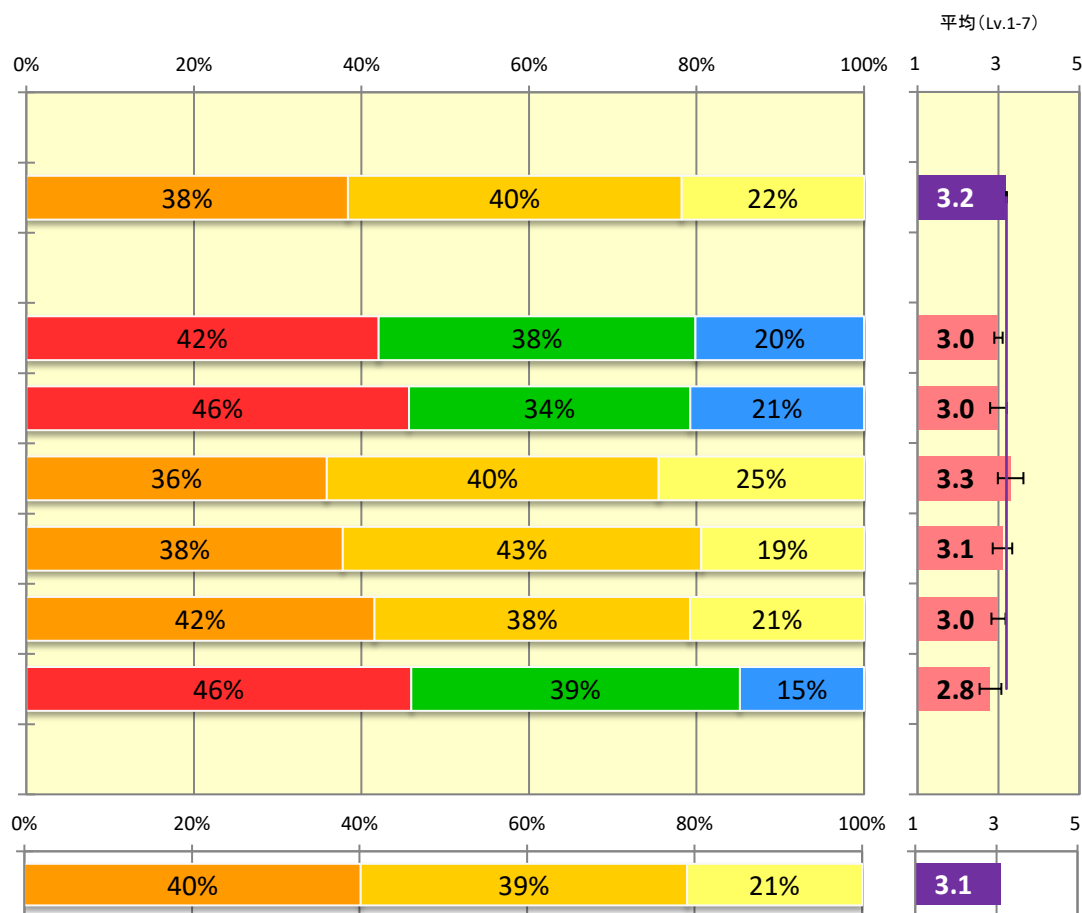
	χ^2 乗値	有意確率
北海道科学大学1年全体	5.83	0.05
工学部1年	6.97	0.03
情報科学部1年	0.55	0.76
薬学部1年	0.87	0.65
保健医療学部1年	1.31	0.52
未来デザイン学部1年	5.02	0.08

【ご参考基準集団】

2024年度北海道科学大学1年

1校 N=982

コンピテンシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向

【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、北海道科学大学1年全体、工学部1年、薬学部1年、未来デザイン学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

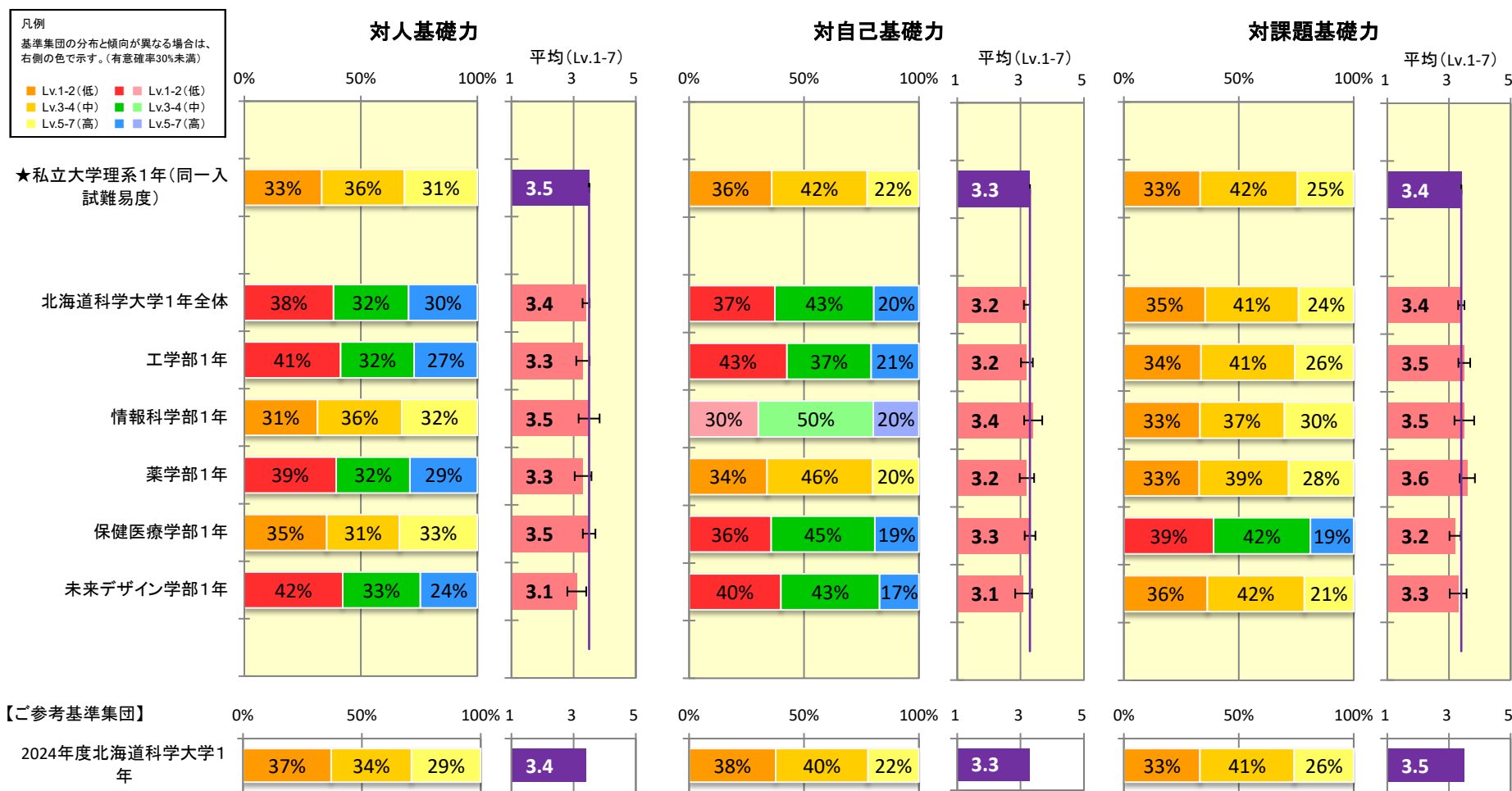
【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、北海道科学大学1年全体、工学部1年、未来デザイン学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

●基準集団(★印)と比較して、保健医療学部1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、保健医療学部1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。



コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【北海道科学大学1年全体】 基準集団(★印)と比較して、統率力、課題発見力の平均値は高い。

一方、感情制御力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

【工学部1年】 基準集団(★印)と比較して、統率力の平均値は高く、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

一方、感情制御力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力の平均値は低い。

【情報科学部1年】 基準集団(★印)と比較して、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力の平均値は高く、自信創出力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

一方、協働力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、親和力の平均値は低い。

【薬学部1年】 基準集団(★印)と比較して、課題発見力の平均値は高く、統率力、感情制御力、自信創出力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

一方、親和力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、協働力、行動持続力の平均値は低い。

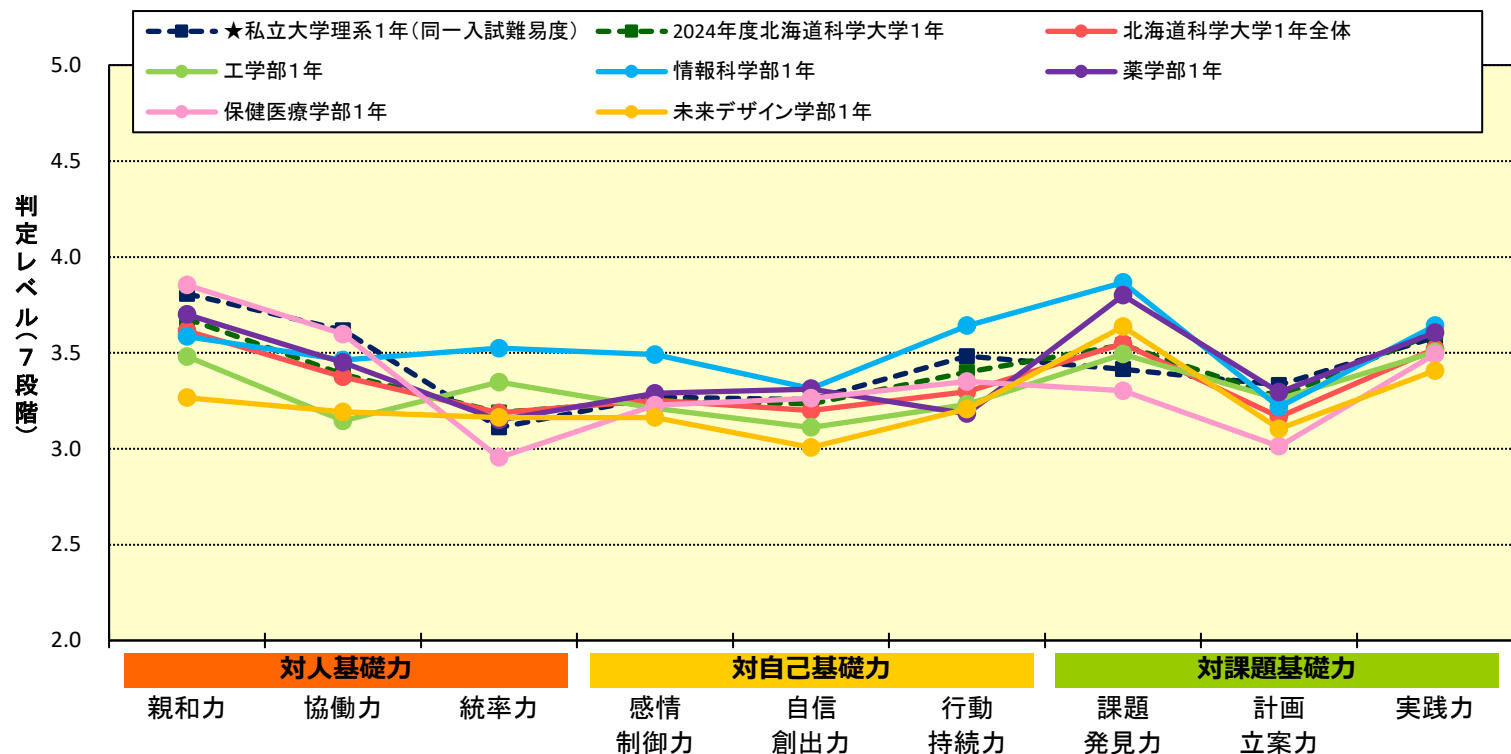
【保健医療学部1年】 基準集団(★印)と比較して、親和力、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。

一方、協働力、感情制御力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

【未来デザイン学部1年】 基準集団(★印)と比較して、課題発見力の平均値は高く、統率力の平均値は上回る傾向にある。

一方、感情制御力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

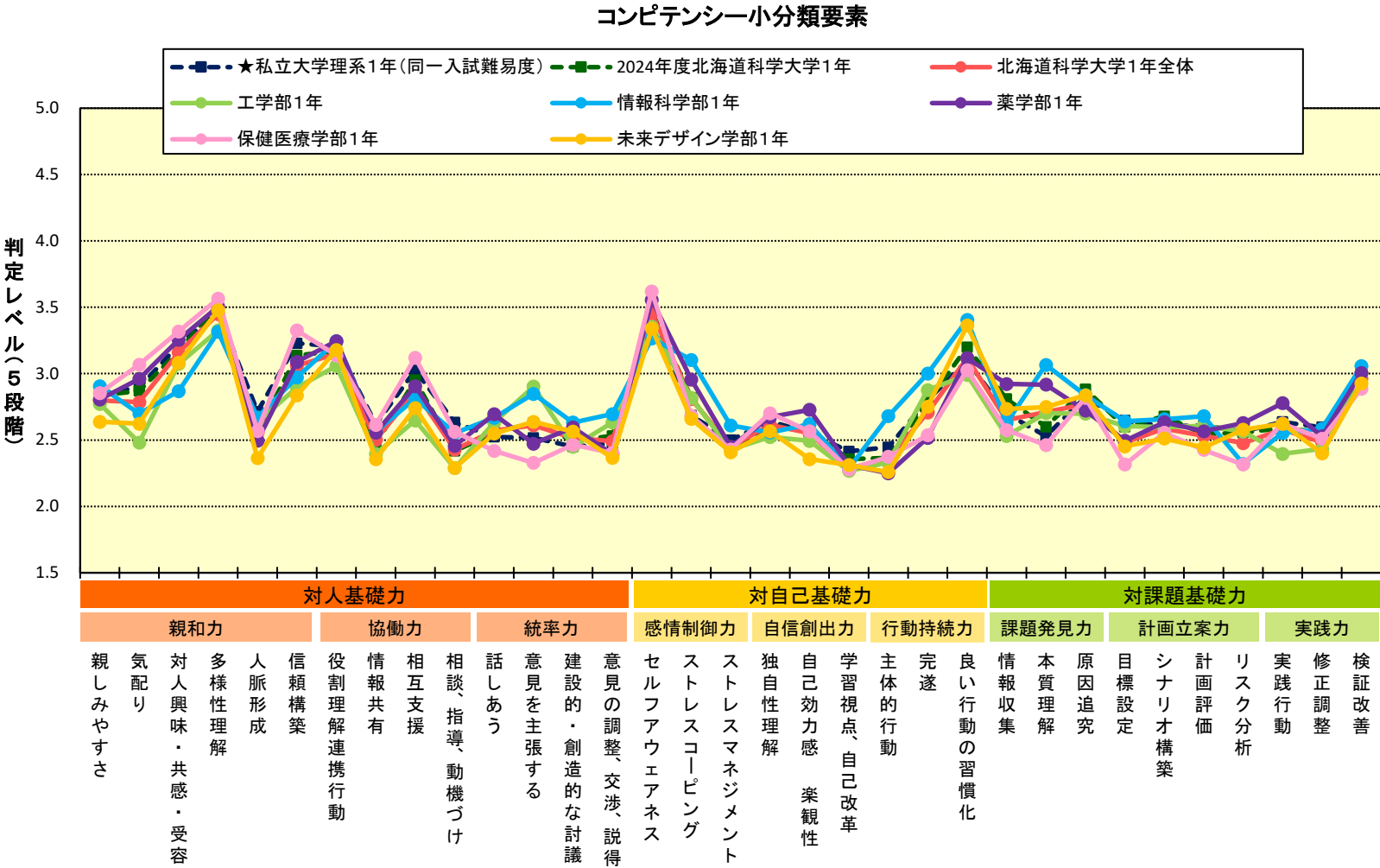
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【北海道科学大学1年全体】

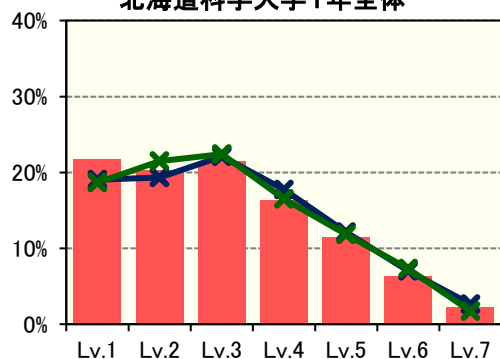
【工学部1年】【情報科学部1年】【薬学部1年】【保健医療学部1年】【未来デザイン学部1年】



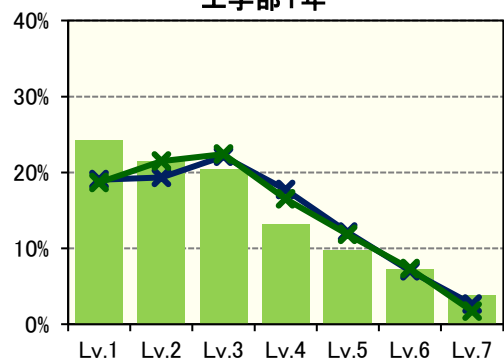
◆ 私立大学理系1年(同一入試難易度)

◆ 2024年度北海道科学大学1年

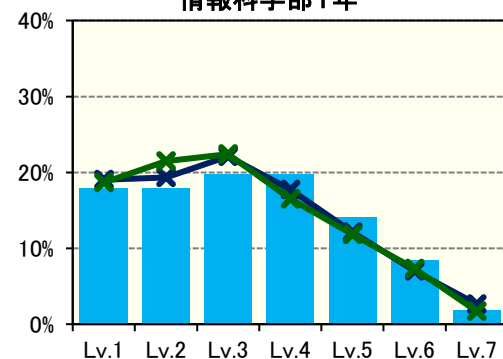
北海道科学大学1年全体



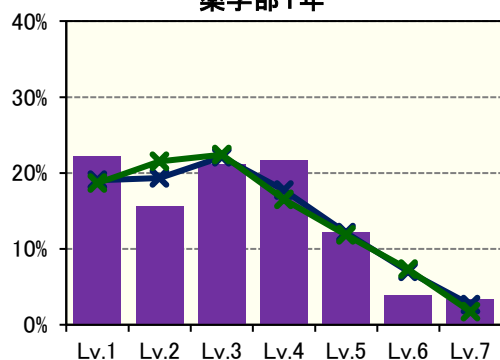
工学部1年



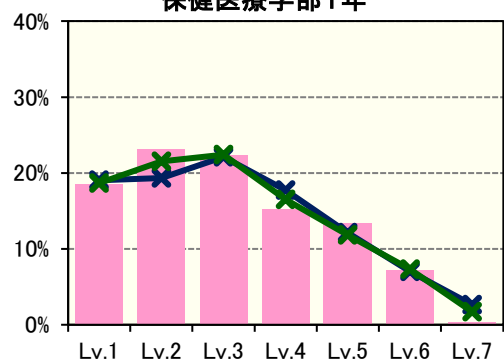
情報科学部1年



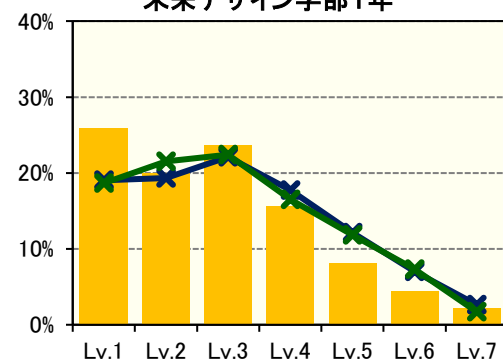
薬学部1年



保健医療学部1年



未来デザイン学部1年



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
北海道科学大学 1 年全体	-	◎	◎	◎	◎	■	▲	▲	◎	-	▲	▲	◎	▲	▲
工学部 1 年	-	◎	◎	◎	◎	■	▲	▲	◎	-	▲	▲	-	-	-
情報科学部 1 年	-	◎	◎	◎	◎	-	▲	-	◎	◎	-	◎	◎	-	-
薬学部 1 年	-	◎	◎	◎	◎	-	-	▲	-	-	-	▲	◎	-	-
保健医療学部 1 年	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	▲	-	-	▲	▲	▲	▲
未来デザイン学部 1 年	-	◎	◎	◎	◎	■	▲	▲	-	-	▲	▲	◎	▲	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【北海道科学大学1年全体】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー		
●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状(お礼メール)など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようさせる
●自信創出力	自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる 初めてのことで、臆せず取り組むことができる 難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする 好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組むことができる	他者との比較の中で、自分の強みや弱みを自覚させる 初めてことに積極的に挑戦させる 将来の価値を期待せず、眼前のことに楽しんで工夫して取り組むよう指導する
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
●実践力	計画の実行中、全体の状況に気を配り調整することができる 先行きを予見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる チームでより良い成果を挙げるために、必要なことは即行動に移すことができる 活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる	活動の先行きを予測して、早めに対応策を考えさせる グループとして、途中までのプロセスを振り返り、以降のステップに活かすよう指導する 当初の目標と比較して、活動の達成状況を客観的に分析させる

今後の課題と対策 ②

【工学部1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
●自信創出力	自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる 初めてのことで、臆せず取り組むことができる 難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする 好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組むことができる	他者との比較の中で、自分の強みや弱みを自覚させる 初めてことに積極的に挑戦させる 将来の価値を期待せず、眼前のことに楽しんで工夫して取り組むよう指導する
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める

【情報科学部1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状(お礼メール)など、人脈の維持・管理に関する指導を行う

今後の課題と対策 ③

【薬学部1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める

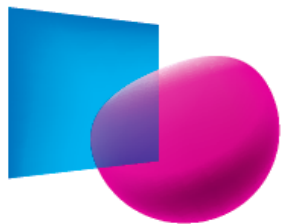
【保健医療学部1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

今後の課題と対策 ④

【未来デザイン学部1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー		
●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
●自信創出力	自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる 初めてのことで、臆せず取り組むことができる 難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする 好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組むことができる	他者との比較の中で、自分の強みや弱みを自覚させる 初めてことに積極的に挑戦させる 将来の価値を期待せず、眼前のことに楽しんで工夫して取り組むよう指導する
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的で妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1-2 3年生 学部別 通常集計

基準集団を、入試難易度(偏差値)を使用し抽出している場合、
入試難易度(偏差値)は河合塾から提供されたものを使用しています。
また、入試難易度(偏差値)は一般入試のみを対象としています。

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立大学理系3年(同一入試難易度)

75校 N=19,782

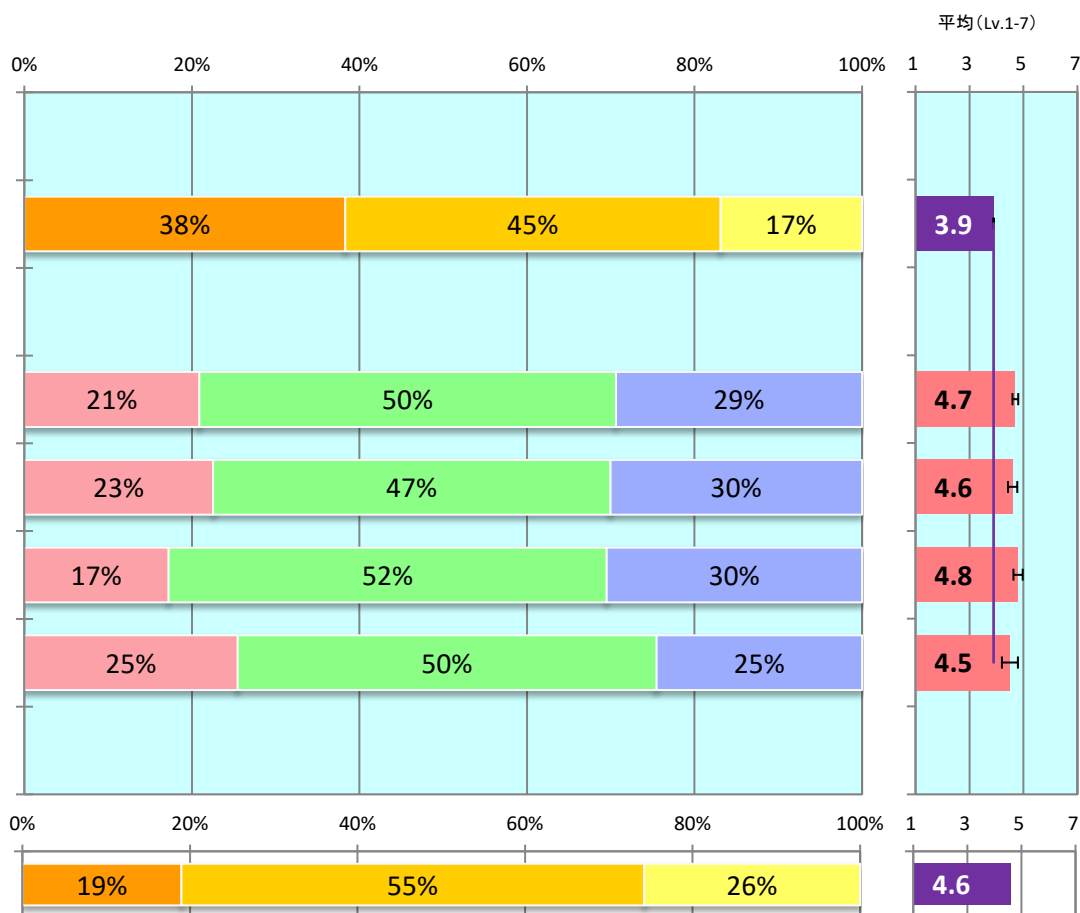
	χ^2 乗値	有意確率
北海道科学大学3年全体	127.14	0.00
工学部3年	56.22	0.00
保健医療学部3年	66.42	0.00
未来デザイン学部3年	8.86	0.01

【ご参考基準集団】

2024年度北海道科学大学3年

1校 N=795

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

【北海道科学大学3年全体】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【工学部3年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

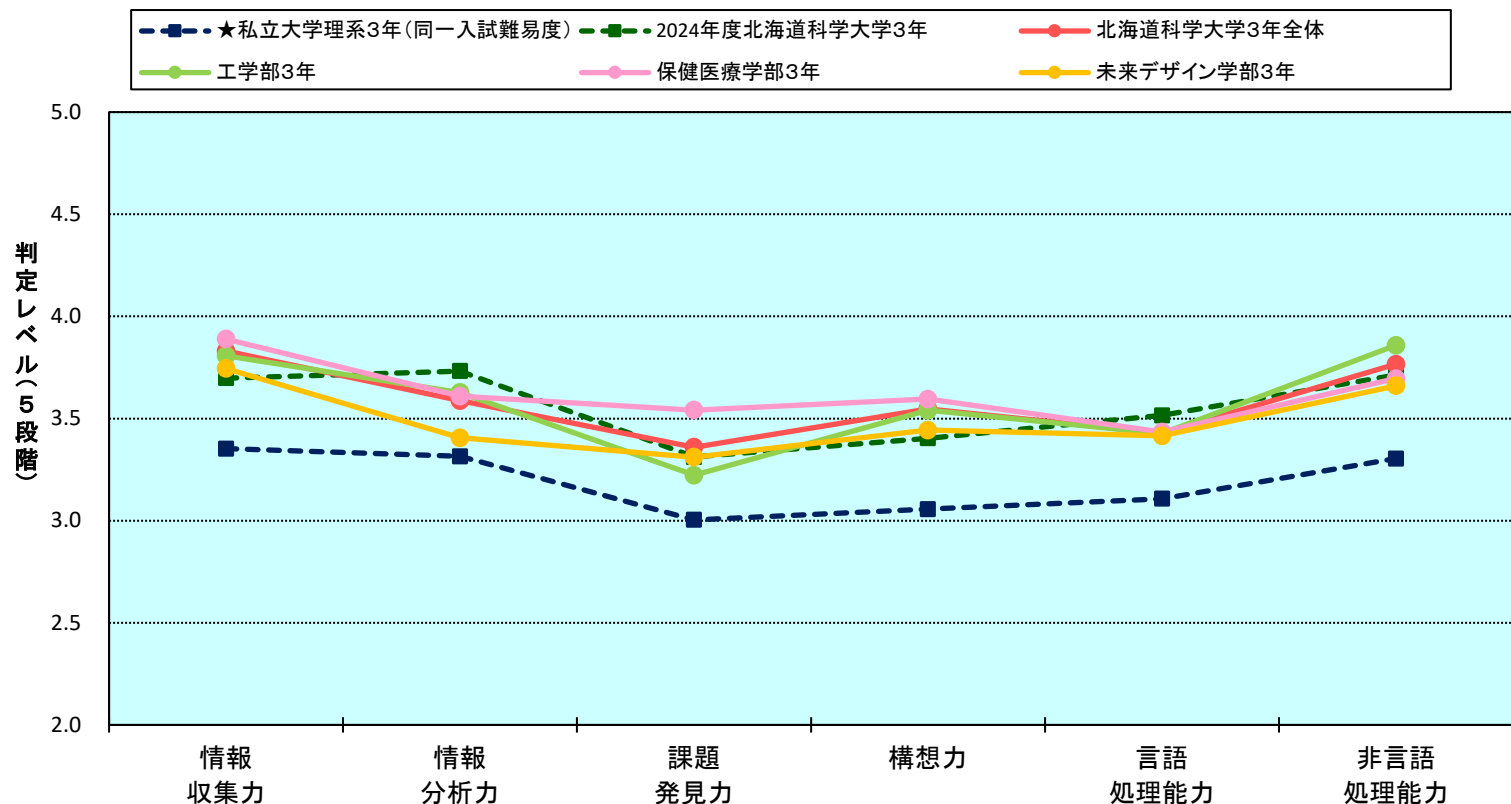
【保健医療学部3年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【未来デザイン学部3年】

基準集団(★印)と比較して、
情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高く、情報分析力の平均値は上回る傾向にある。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

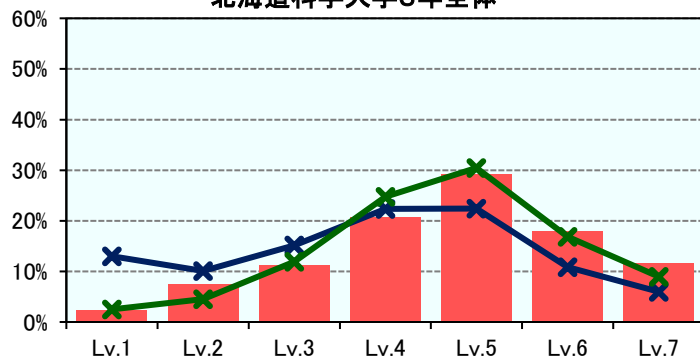
2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

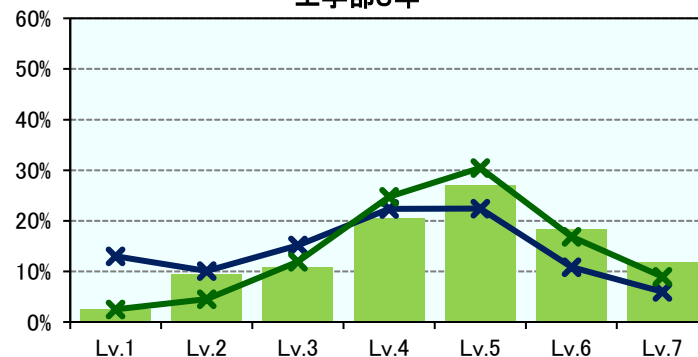
—×— 私立大学理系3年(同一入試難易度)

—×— 2024年度北海道科学大学3年

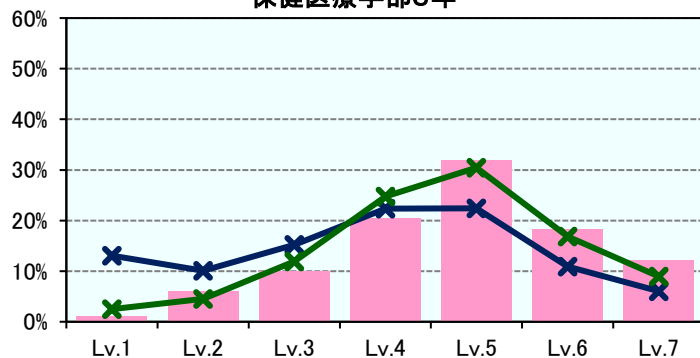
北海道科学大学3年全体



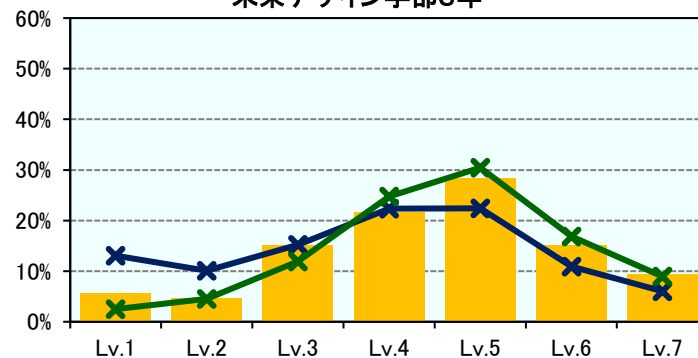
工学部3年



保健医療学部3年



未来デザイン学部3年



コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向

【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (コンピテンシー総合・大分類)

低 (Lv.1-2) 中 (Lv.3-4) 高 (Lv.5-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-2) 中 (Lv.3-4) 高 (Lv.5-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-2) 中 (Lv.3-4) 高 (Lv.5-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

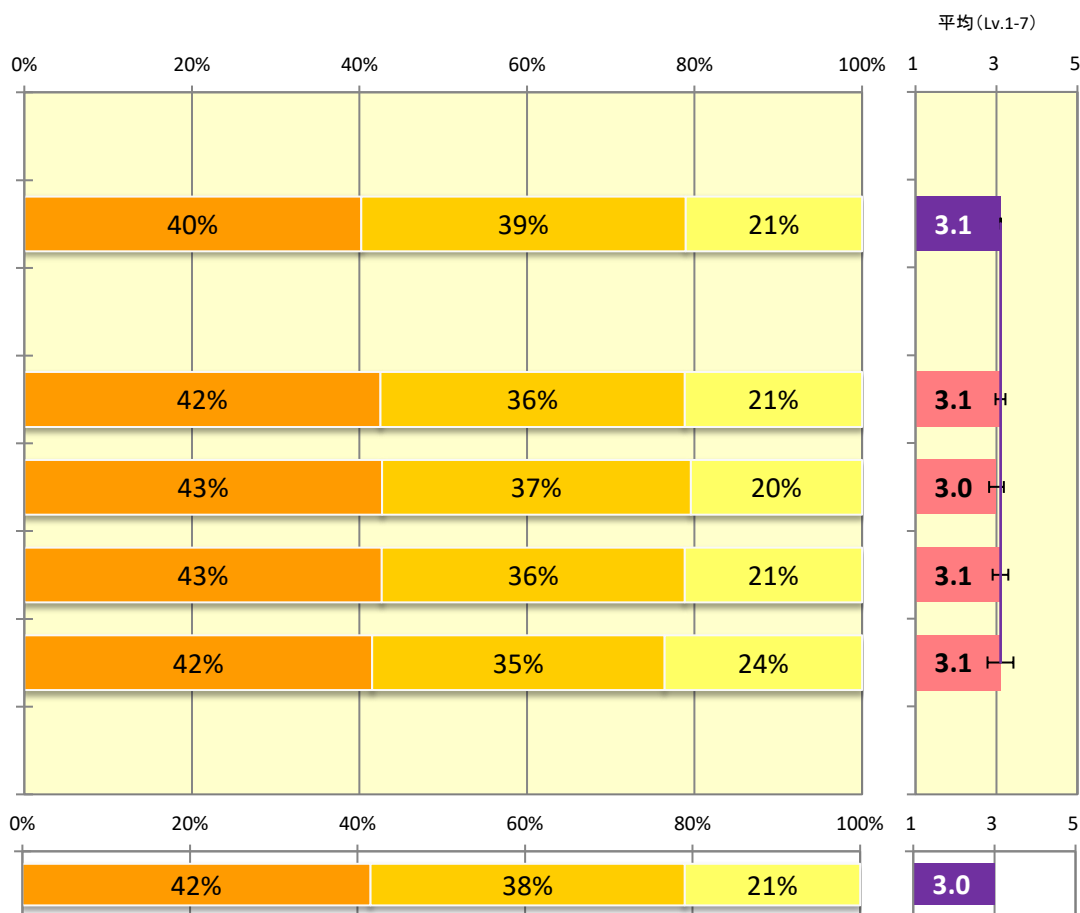
★私立大学理系3年(同一入試難易度)	109校 N=63,461
--------------------	---------------

	χ^2 乗値	有意確率
北海道科学大学3年全体	2.00	0.37
工学部3年	0.85	0.65
保健医療学部3年	0.88	0.64
未来デザイン学部3年	0.77	0.68

【ご参考基準集団】

2024年度北海道科学大学3年	1校 N=795
-----------------	----------

コンピテンシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、工学部3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

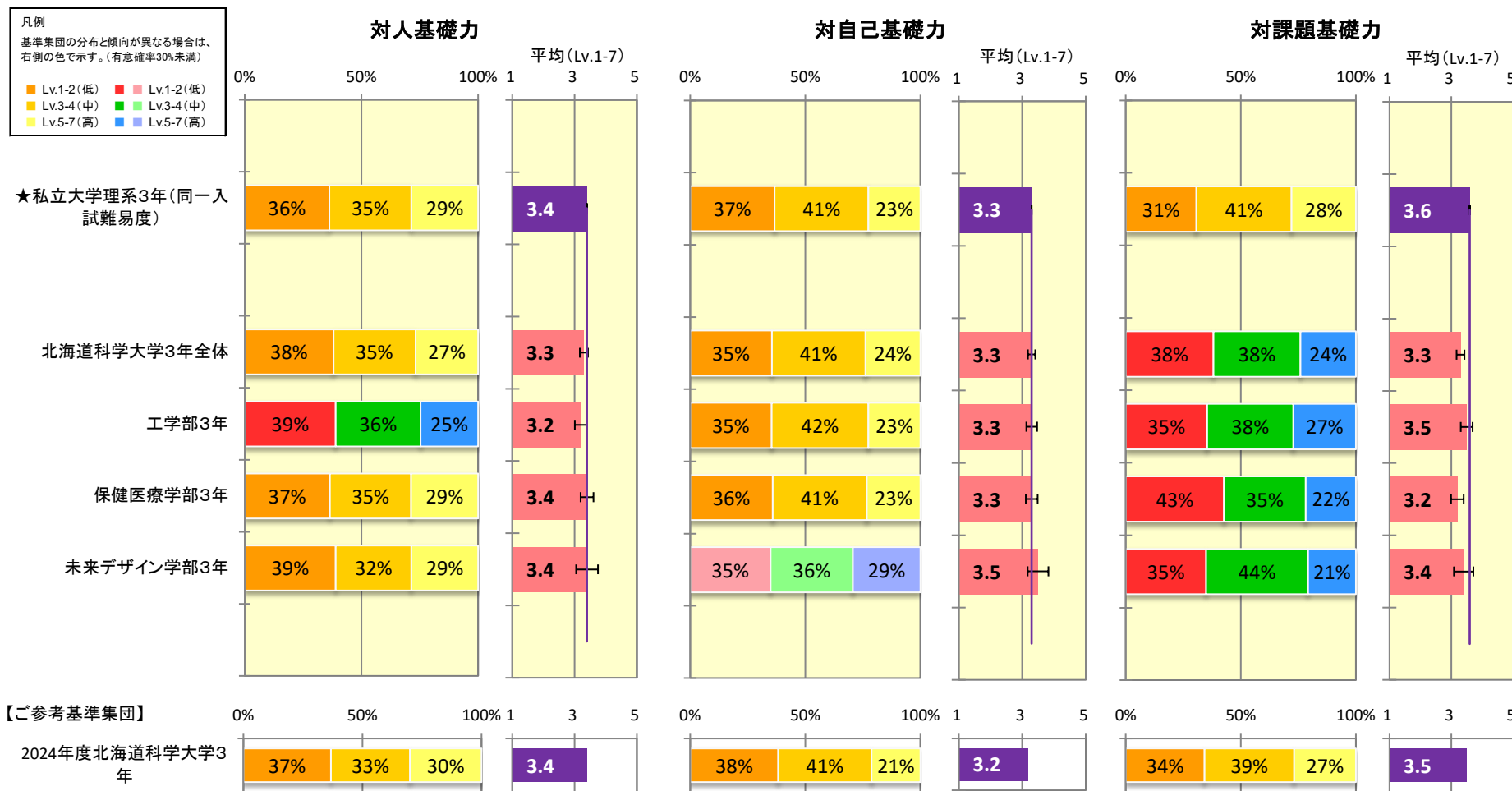
【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、北海道科学大学3年全体、工学部3年、保健医療学部3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

●基準集団(★印)と比較して、未来デザイン学部3年は、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる。

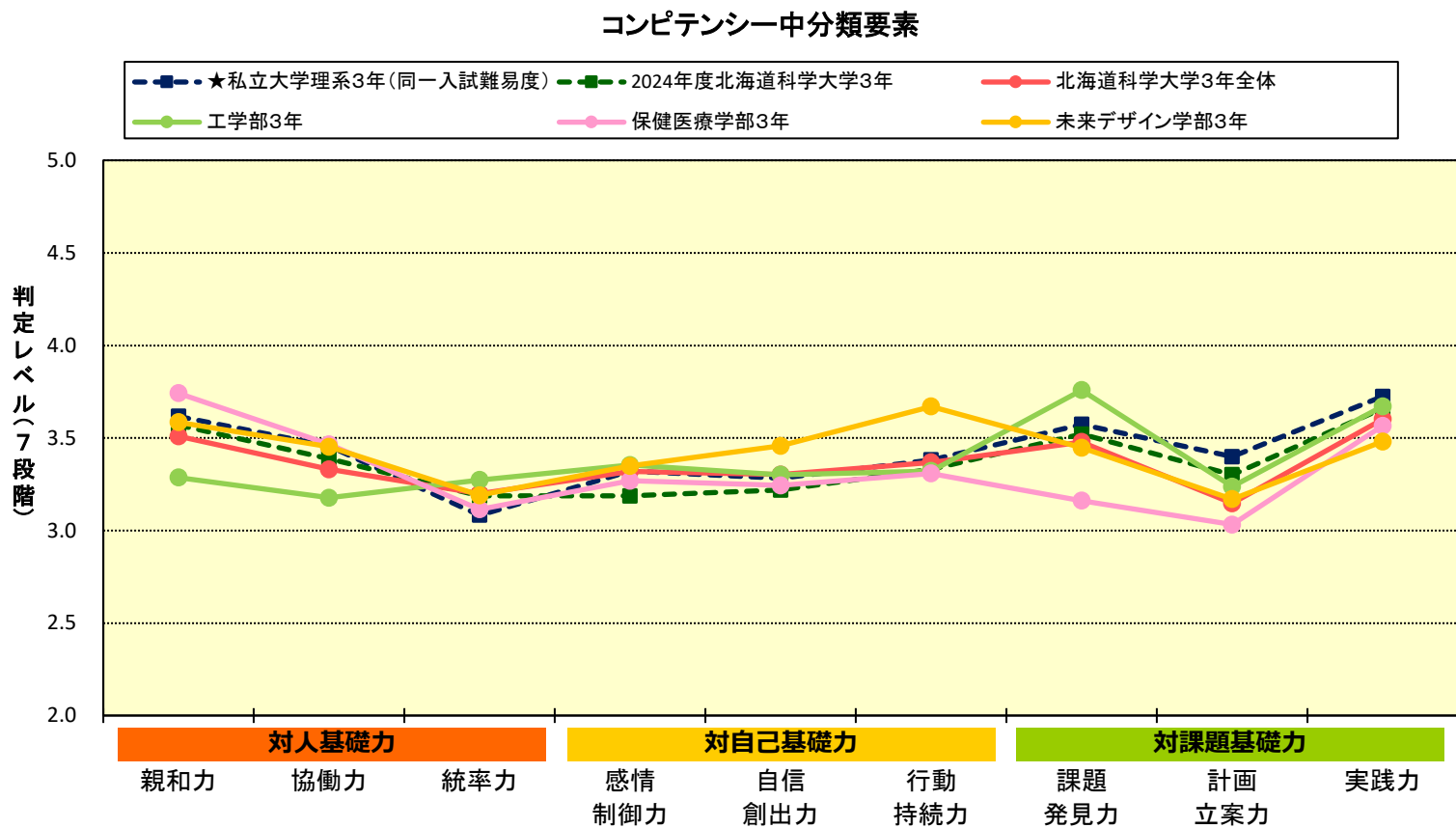


【北海道科学大学3年全体】
基準集団(★印)と比較して、統率力の平均値は高く、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
一方、感情制御力、行動持続力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

【工学部3年】
基準集団(★印)と比較して、統率力、課題発見力の平均値は高く、感情制御力、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
一方、行動持続力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、計画立案力の平均値は低い。

【保健医療学部3年】
基準集団(★印)と比較して、親和力の平均値は高く、協働力、統率力の平均値は上回る傾向にある。
一方、感情制御力、自信創出力、行動持続力の平均値は下回る傾向にあり、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は低い。

【未来デザイン学部3年】
基準集団(★印)と比較して、行動持続力の平均値は高く、統率力、感情制御力、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。
一方、親和力、協働力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、計画立案力、実践力の平均値は低い。



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

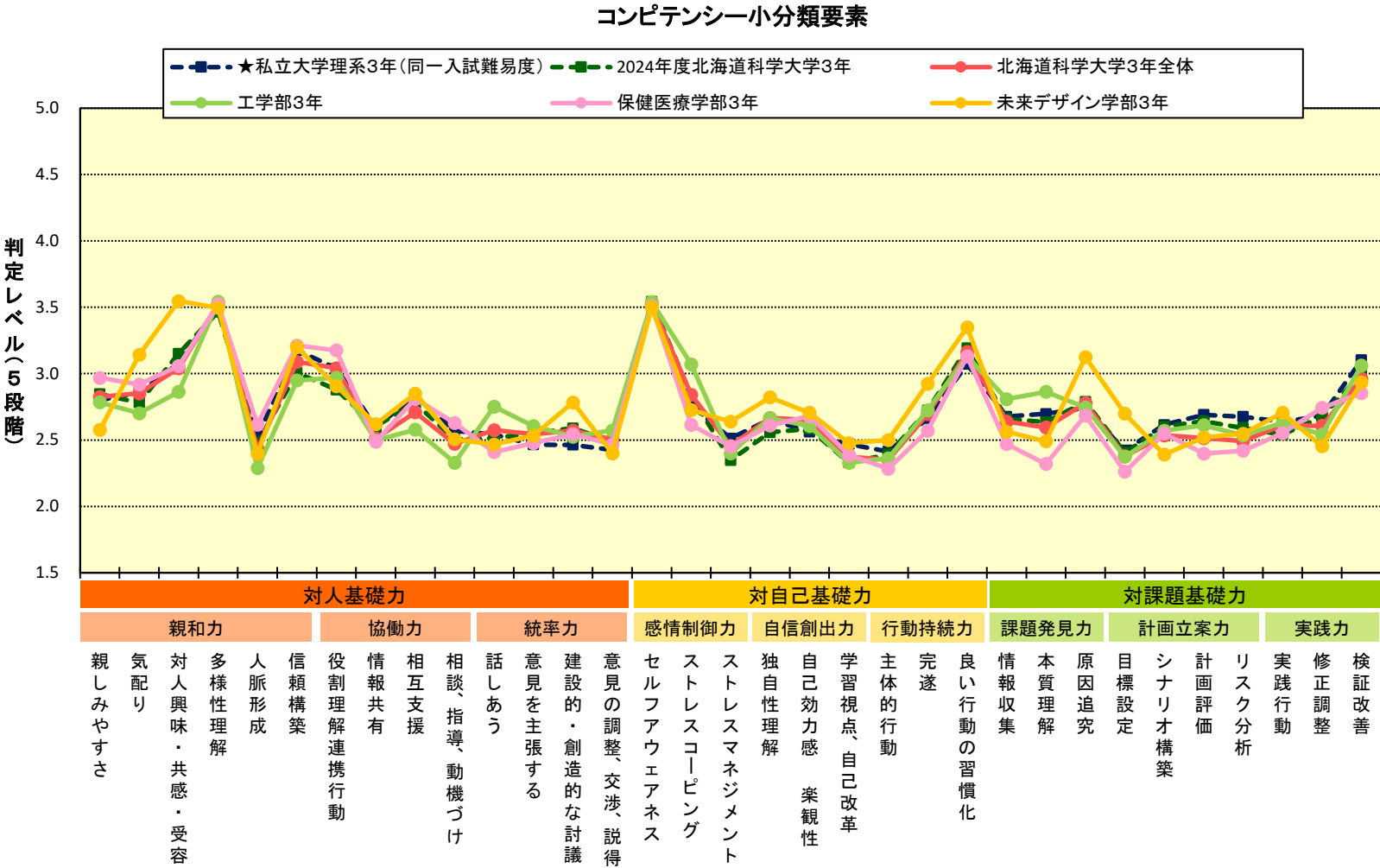
3) 基準集団よりも大きいが、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さいが、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【北海道科学大学3年全体】

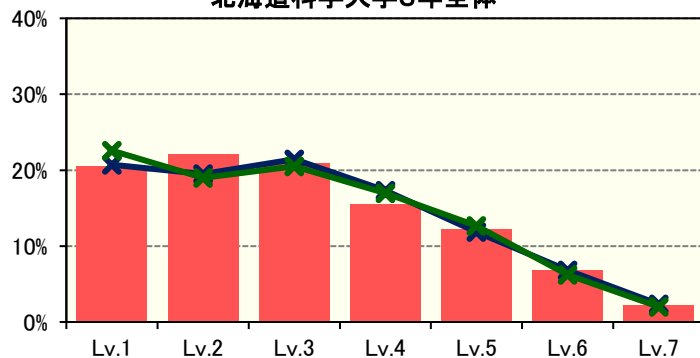
【工学部3年】【保健医療学部3年】【未来デザイン学部3年】



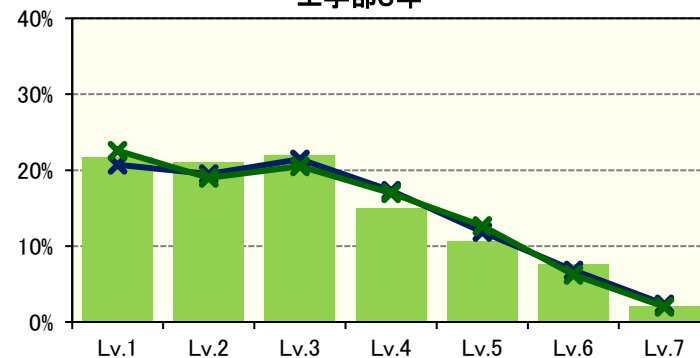
◆ 私立大学理系3年(同一入試難易度)

◆ 2024年度北海道科学大学3年

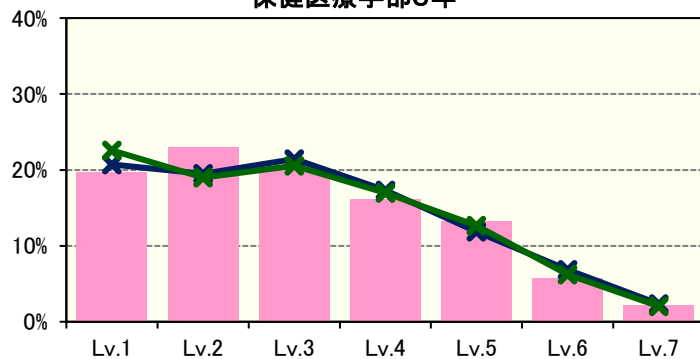
北海道科学大学3年全体



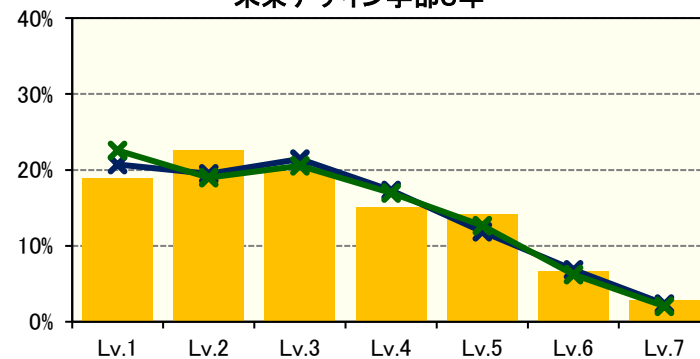
工学部3年



保健医療学部3年



未来デザイン学部3年



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
北海道科学大学 3 年全体	-	◎	◎	◎	◎	-	▲	▲	◎	-	-	-	▲	▲	▲
工学部 3 年	-	◎	◎	◎	◎	-	▲	▲	◎	-	-	-	◎	▲	-
保健医療学部 3 年	-	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	-	-	-	-	▲	▲	▲
未来デザイン学部 3 年	-	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	◎	-	▲	▲

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【北海道科学大学3年全体】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状(お礼メール)など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的なで妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
●実践力	計画の実行中、全体の状況に気を配り調整することができる 先行きを予見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる チームでより良い成果を挙げるために、必要なことは即行動に移すことができる 活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる	活動の先行きを予測して、早めに対応策を考えさせる グループとして、途中までのプロセスを振り返り、以降のステップに活かすよう指導する 当初の目標と比較して、活動の達成状況を客観的に分析させる

【工学部3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的なで妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける

今後の課題と対策 ②

【保健医療学部3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●課題発見力	課題に応じて様々な方法で情報を集めることができる 定量データを客観的に分析し、複数の因果関係の仮説を立てることができる 課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理・分析できる	物事の因果関係を、論理的に考える機会を設ける 問題の本質に迫るために、自分で納得するまで深く考えさせるようにする 定性的な情報と定量的な情報の両方の観点から分析させる
●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的に妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
●実践力	計画の実行中、全体の状況に気を配り調整することができる 先行きを予見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる チームでより良い成果を挙げるために、必要なことは即行動に移すことができる 活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる	活動の先行きを予測して、早めに対応策を考えさせる グループとして、途中までのプロセスを振り返り、以降のステップに活かすよう指導する 当初の目標と比較して、活動の達成状況を客観的に分析させる

【未来デザイン学部3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●計画立案力	経験のあることならば、不確定な部分があっても具体的に妥当な計画を立てられる 立案した計画の実現性を吟味することができる 経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる 事前にリスクを想定し手を打つことができる	限られた時間や予算の中で、計画を練り上げる機会を設ける 計画を立てる際に、その現実性について十分に吟味させる 類似のケースや、過去の事例などを通じて、計画のリスクを考える機会を設ける 将来起こりうる事象について、リスクの程度を推し量る機会を設ける
●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける